



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年11月7日

上場会社名 わかもと製薬株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4512 URL <https://www.wakamoto-pharm.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 五十嵐 新
 問合せ先責任者 (役職名) 広報室長 (氏名) 福原 和彦 TEL 03-3279-0371
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	4,019	0.3	△85	—	△27	—	△21	—
2022年3月期第2四半期	4,007	—	△172	—	△153	—	111	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△0.62	—
2022年3月期第2四半期	3.22	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	14,737	11,579	78.6	333.62
2022年3月期	14,953	11,480	76.8	330.79

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 11,579百万円 2022年3月期 11,480百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 2023年3月期(予想)の配当は未定であります。
 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2023年3月期の業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,500	1.4	90	—	110	52.2	150	△37.1	4.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年3月期2Q	34,838,325株	2022年3月期	34,838,325株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年3月期2Q	131,167株	2022年3月期	131,077株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年3月期2Q	34,707,224株	2022年3月期2Q	34,707,398株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の第7波により感染が再拡大いたしました。感染患者数の全数把握の見直し等、各種コロナ政策が段階的に緩和され、経済活動は徐々に正常化に向かいつつあるものの、ウクライナ情勢等に起因した原材料価格・エネルギー価格の高騰を受け、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社を取り巻く環境は、医薬事業では毎年の薬価引下げ等の薬剤費抑制政策が継続的に押し進められ厳しい環境下にありますが、ヘルスケア事業では国内消費の落ち込みが緩やかに持ち直しつつある状況に加え、外国人観光客の入国制限も一部緩和され、インバウンド需要も徐々に回復しつつあります。

そのなかにあつて当社の医薬事業では、これまでの医療用医薬品の適正使用の推進と副作用関連の情報提供活動に加えて、卸との連携等を強化することで主力製品である眼科手術補助剤・眼科用副腎皮質ホルモン剤「マキユエイド眼注用40mg」等の利益製品の販売シェアを拡大し、利益を生み出す構造へ変革を推進してまいりました。ヘルスケア事業においては、店頭での販促活動や広告宣伝を通じて、主力製品の「強力わかもと」を40代、50代を中心とした新規顧客層に対して認知拡大を図る一方、通販では「アバンビーズ オーラルタブレット(乳酸菌含有加工食品)」の休眠顧客に対してアプローチを行ってまいりました。グローバル事業は台湾などアジア圏での「わかもと」の販売に加え、米国や欧州、アジア圏においてライセンスイン・アウトの活動、また中国越境ECビジネスでの代理店との協働を促進した営業活動を行い、国内では医薬品原料の販売や受託製造を推進してまいりました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は40億1千9百万円(前年同期比0.3%増)、営業損失8千5百万円(前年同期は営業損失1億7千2百万円)、経常損失2千7百万円(前年同期は経常損失1億5千3百万円)、四半期純損失は2千1百万円(前年同期は四半期純利益1億1千1百万円)となりました。

セグメント別の売上高の状況につきましては、医薬事業では「マキユエイド眼注用40mg」、「カルテオロール塩酸塩LA点眼液」の売上が増加いたしました。また、「ドルモロール配合点眼液」及び長期収載医薬品である「リズモンTG点眼液」の売上が減少し、また原薬提供停滞に伴う供給停止により「FAD腸溶錠」の売上が減少いたしました。その結果、売上高は21億3千1百万円(前年同期比2.5%減)となりました。

ヘルスケア事業では、「アレジフェンス」の売上が増加いたしました。また、通販事業における「アバンビーズ オーラルタブレット」及び主力製品の「強力わかもと」の売上が減少いたしました。その結果、売上高は8億5千万円(前年同期比12.3%減)となりました。

グローバル事業では、一部受託製品が減少いたしました。また、海外向け「わかもと」の売上が増加いたしました。その結果、売上高は9億4千9百万円(前年同期比21.2%増)となりました。

なお、当第1四半期会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前事業年度との比較については変更後の報告セグメントの区分に基づいております。詳細については、9ページ「セグメント情報」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載しております。

不動産賃貸業の主たる収入はコレド室町関連の賃貸料であります。テナント入替の影響で一時的に減少したオフィス賃貸料が回復したことに加え、各種コロナ政策が段階的に緩和され、経済活動が活性化したことにより商業賃貸料も増加いたしました。その結果、売上高は8千9百万円(前年同期比28.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における総資産は、147億3千7百万円となり前事業年度末比2億1千5百万円(1.4%)の減少となりました。流動資産は85億3千5百万円となり7千2百万円(0.8%)の減少、固定資産は62億1百万円となり1億4千3百万円(2.3%)の減少となりました。

流動資産が減少いたしましたのは、現金及び預金が増加した一方、売掛金、未収入金が増加したことが主たる要因であります。固定資産が減少いたしましたのは、投資有価証券が増加した一方、保険積立金が増加したことが主たる要因であります。

一方、負債の部は、31億5千8百万円となり前事業年度末比3億1千4百万円(9.0%)の減少となりました。流動負債は16億8千3百万円となり3億2千5百万円(16.2%)の減少、固定負債は14億7千5百万円となり1千1百万円(0.8%)の増加となりました。

流動負債が減少いたしましたのは、買掛金が増加したことが主たる要因であります。一方、固定負債が増加いたしましたのは、繰延税金負債が増加したことが主たる要因であります。

純資産の部は、115億7千9百万円となり前事業年度末比9千8百万円(0.9%)の増加となりました。その他有価証券評価差額金が増加したことが主たる要因であります。

この結果、自己資本比率は、前事業年度末の76.8%から78.6%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、通期の業績予想につきましては2022年5月16日に公表いたしました業績予想及び配当予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,231,889	3,634,798
受取手形及び売掛金	2,664,597	2,444,401
商品及び製品	1,250,309	1,155,420
仕掛品	399,358	383,453
原材料及び貯蔵品	601,342	601,974
未収還付法人税等	3,305	1,203
その他	457,322	314,621
流動資産合計	8,608,125	8,535,873
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,919,643	7,923,000
減価償却累計額	△5,257,371	△5,357,643
建物(純額)	2,662,272	2,565,356
構築物	268,504	268,504
減価償却累計額	△244,046	△247,325
構築物(純額)	24,457	21,179
機械及び装置	8,312,532	8,345,751
減価償却累計額	△7,917,292	△7,971,856
機械及び装置(純額)	395,239	373,895
車両運搬具	37,843	37,843
減価償却累計額	△31,633	△32,759
車両運搬具(純額)	6,210	5,083
工具、器具及び備品	1,017,087	1,026,246
減価償却累計額	△921,735	△937,942
工具、器具及び備品(純額)	95,351	88,304
土地	82,947	82,947
建設仮勘定	31,000	38,086
有形固定資産合計	3,297,478	3,174,853
無形固定資産		
ソフトウェア	190,211	164,243
ソフトウェア仮勘定	2,160	-
その他	3,680	3,680
無形固定資産合計	196,051	167,923
投資その他の資産		
投資有価証券	2,066,342	2,241,100
保険積立金	472,656	317,800
修繕積立金	50,896	66,114
その他	298,988	270,355
貸倒引当金	△37,103	△36,403
投資その他の資産合計	2,851,779	2,858,966
固定資産合計	6,345,310	6,201,743
資産合計	14,953,435	14,737,616

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,074,138	752,560
短期借入金	100,000	100,000
未払法人税等	48,429	37,230
未払消費税等	22,848	38,174
賞与引当金	114,300	167,473
その他	649,101	587,672
流動負債合計	2,008,818	1,683,111
固定負債		
退職給付引当金	1,085,141	1,063,728
長期預り金	171,633	171,613
繰延税金負債	205,448	239,025
その他	1,589	1,059
固定負債合計	1,463,813	1,475,427
負債合計	3,472,632	3,158,539
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,395,887	3,395,887
資本剰余金	2,675,828	2,675,828
利益剰余金	4,568,208	4,546,688
自己株式	△36,273	△36,296
株主資本合計	10,603,651	10,582,108
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	877,152	996,969
評価・換算差額等合計	877,152	996,969
純資産合計	11,480,803	11,579,077
負債純資産合計	14,953,435	14,737,616

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	4,007,083	4,019,650
売上原価	1,960,696	2,152,228
売上総利益	2,046,387	1,867,421
販売費及び一般管理費	2,218,561	1,953,366
営業損失(△)	△172,174	△85,944
営業外収益		
受取利息	11	13
受取配当金	26,152	24,968
保険返戻金	-	37,630
雇用調整助成金	2,400	-
その他	4,390	8,314
営業外収益合計	32,954	70,926
営業外費用		
支払利息	290	292
固定資産除却損	3,002	105
寄付金	10,884	10,834
為替差損	-	1,630
その他	179	65
営業外費用合計	14,356	12,927
経常損失(△)	△153,576	△27,945
特別利益		
投資有価証券売却益	212,989	-
特別利益合計	212,989	-
特別損失		
固定資産除却損	390	-
特別損失合計	390	-
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	59,022	△27,945
法人税、住民税及び事業税	13,865	12,805
法人税等調整額	△66,672	△19,230
法人税等合計	△52,806	△6,424
四半期純利益又は四半期純損失(△)	111,829	△21,520

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	59,022	△27,945
減価償却費	231,273	227,930
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△280	△700
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	19,681	△21,412
賞与引当金の増減額 (△は減少)	52,100	53,173
受取利息及び受取配当金	△26,164	△24,981
保険戻戻金	-	△37,630
支払利息	290	292
投資有価証券売却損益 (△は益)	△212,989	-
固定資産除却損	3,392	105
売上債権の増減額 (△は増加)	58,391	220,195
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△152,559	110,162
仕入債務の増減額 (△は減少)	98,513	△359,148
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△41,945	15,326
預り敷金及び保証金の増減額 (△は減少)	544	△20
その他	23,837	93,014
小計	113,108	248,363
利息及び配当金の受取額	26,164	24,981
利息の支払額	△290	△292
法人税等の還付額	51,432	3,305
法人税等の支払額	△21,524	△22,066
営業活動によるキャッシュ・フロー	168,890	254,291
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△70,681	△43,470
無形固定資産の取得による支出	△25,591	△9,309
投資有価証券の取得による支出	△2,050	△2,133
投資有価証券の売却による収入	421,074	-
保険積立金の積立による支出	△16,883	△10,968
保険積立金の解約による収入	-	203,660
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△19,944	11,870
投資活動によるキャッシュ・フロー	285,922	149,649
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△31	△22
配当金の支払額	△496	△479
リース債務の返済による支出	△529	△529
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,057	△1,031
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	453,755	402,909
現金及び現金同等物の期首残高	2,843,762	3,231,889
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,297,517	3,634,798

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額	四半期損益計算書計上額 (注)1
	医薬事業	ヘルスケア事業	グローバル事業	不動産賃貸業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	2,186,085	968,839	782,778	69,380	4,007,083	4,007,083	—	4,007,083
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,186,085	968,839	782,778	69,380	4,007,083	4,007,083	—	4,007,083
セグメント利益又は損失(△)	△157,347	△95,598	65,891	14,879	△172,174	△172,174	—	△172,174

(注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第2四半期累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額	四半期損益計算書計上額 (注)1
	医薬事業	ヘルスケア事業	グローバル事業	不動産賃貸業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	2,131,274	850,022	949,017	89,335	4,019,650	4,019,650	—	4,019,650
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,131,274	850,022	949,017	89,335	4,019,650	4,019,650	—	4,019,650
セグメント利益又は損失(△)	△205,013	36,972	44,908	37,188	△85,944	△85,944	—	△85,944

(注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、従来の報告セグメントである「国際事業」の名称を「グローバル事業」に変更しております。また国内外のB to B事業を効率的に展開するために組織変更を行い、従来、「医薬事業」に区分していた国内向けの医薬品原料の販売及び受託製造販売に関わる事業を行っている営業企画課を「グローバル事業」に区分しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法に基づき作成したものを記載しております。